令和7年9月30日

# 令和7年度　保育所における施設評価

喜志麻保育園

【評価】 A(大変良い)3点　 B(良い) 2点　 C(一部検討要)1点　 D(改善要) 0点　とし平均を評価点とする

| 項目 | | 内　容 | 評価点 | 意見・改善策・特記事項 |
|---|---|---|---|---|
| 計画 | 1 | 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を編成している | 2.75 | ・子どもの発達過程や理念、保育方針に基づいて全体的な計画が編成されている。<br>・以上児の異年齢保育の記録の在り方や月週案の様式の見直しがされている。 |
| | | □　保育所の理念、保育の方針や目標に基づいて編成している | | |
| | | □　子どもの発達過程、子どもと家庭の状況や保育時間、地域の実態等を考慮し編成している | | |
| | | □　全体的な計画は、保育に関わる職員が参画して編成している | | |
| | | □　計画は、定期的に評価を行い、次の編成に生かしている | | |
| 養護と教育の一体的な展開 | 2 | 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している | 2.75 | ・子ども達が過ごしやすいように考え、必要に応じ修繕を行い環境が整備されている。<br>・職員も快適な環境で保育ができるよう空調整備をしている(トイレなど)。<br>・保育環境について、適宜、発達に応じたレイアウトや玩具の見直しをしている。 |
| | | □　室内の温度、湿度、換気、採光、音等の環境は常に適切な状態に保持している | | |
| | | □　保育所内外の設備や用具(玩具)の衛生管理に努めている | | |
| | | □　家具や遊具の素材、配置等の工夫をしている | | |
| | | □　一人ひとりの子どもが、くつろいだり、落ち着ける場所がある | | |
| | | □　食事や睡眠のための心地よい生活空間が確保されている | | |
| | | □　トイレは、明るく清潔で、子どもが利用しやすい設備を整え、安全配慮もされている | | |
| | 3 | 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている | 3.00 | ・子ども一人ひとりを受容し、安心して過ごせるよう子どもに合わせた保育を行っている。<br>・不適切保育について、園内研修で取り上げ全職員で学びを深めている。<br>・子どもの家庭環境など背景を理解した関わりをしている。<br>・子ども一人一人の思いを大切にし、肯定的な言葉掛けを全職員が意識している。 |
| | | □　子どもの発達、家庭環境をふまえ、一人ひとりの個人差を十分に把握し、尊重している | | |
| | | □　子どもが安心して自分の気持ちを表現できるよう配慮し、対応している | | |
| | | □　自分を表現する力が十分でない子どもの気持ちをくみ取ろうとしている | | |
| | | □　子どもの欲求を受け止め、子どもの気持ちにそって適切に対応している | | |
| | | □　子どもに分かりやすい言葉づかいで、穏やかに話している | | |
| | | □　せかす言葉や制止させる言葉を不必要に用いないようにしている | | |
| | 4 | 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている | 3.00 | ・緩やかな育児担当制を行い、個々の発達に寄り添って、生活習慣の自立に向け援助を行っている。<br>・さらに、各年齢の発達を理解したうえで、援助の目安、方向性について更に学びを深める必要がある。 |
| | | □　子どもの発達に合わせて、基本的生活習慣を身につけられるよう配慮している | | |
| | | □　基本的生活習慣の習得においては、自分でやろうとする気持ちを尊重し援助を行っている | | |
| | | □　生活習慣を身につけるために、強制することなく、子どもの主体性を尊重している | | |
| | | □　一人ひとりの状態に応じて、活動と休息のバランスが保たれるように工夫している | | |
| | | □　生活習慣を身につけることの大切さについて、子どもが理解できるよう働きかけている | | |
| | 5 | 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している | 2.25 | ・未満児と以上児の日常的な交流が見られることから、社会性の発達につながっている。<br>・酷暑のため、安全上充分な外遊びは難しかったが、室内での運動も多く取り入れるなど工夫がみられる。<br>・自発性を発揮できる環境を、更に取り入れる工夫が必要である。 |
| | | □　子どもが自主的・自発的に生活と遊びができる環境を整備している | | |
| | | □　子どもが自発性を発揮できるよう援助している | | |
| | | □　遊びの中で、進んで身体を動かすことができるよう援助している | | |
| | | □　戸外で遊ぶ時間や環境を確保している | | |
| | | □　生活と遊びを通して、友達などと人間関係が育つよう援助している | | |
| | | □　子どもたちが友達と協同して活動できるよう援助している | | |
| | | □　社会的ルールや態度を身につけていくよう配慮している | | |
| | | □　身近な自然と触れ合うことができるよう工夫している | | |
| | | □　地域の方に接する機会、社会体験が得られる機会を設けている | | |
| | | □　様々な表現活動が自由に体験できるよう工夫している | | |
| | 6 | 0歳児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している | 3.00 | ・子どもの生活リズムに合わせて、生活や遊びが一人ひとり保障されている。 |
| | | □　0歳児が長時間過ごす為に適した生活と遊び及び環境への工夫がされている | | |
| | | □　0歳児が、安心して、保育士等と愛着関係(情緒の安定)が持てるよう配慮している | | |
| | | □　子どもの表情を大切にし、応答的な関わりをしている | | |
| | | □　0歳児が興味と関心を持つことができる生活と遊びへの配慮がされている | | |
| | | □　0歳児の発達過程に応じて、必要な保育を行っている | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | □ 0歳児の生活と遊びに配慮し、家庭との連携を密にしている | | |
| 養護と教育の一体的な展開 | 7 | 1．2歳児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している | 2.25 | ・子どもの発達や様子に合わせ、環境など工夫しながら保育を行っている。<br>・異年齢交流など、積極的な保育環境を作り成長を促している。<br>・担任同志が一緒になって保育を考え、積極的に関わっていく姿勢が大切である。<br>・自我の育ちに合わせて、子どもの思いや行動を待つなど、見通しを持った関わり方を学ぶ必要がある。 |
| | | □ 一人ひとりの子どもの状況に応じ、子どもが自分でしようとする気持ちを尊重している | | |
| | | □ 探索活動が十分行えるような環境を整備している | | |
| | | □ 子どもが安心して遊びを中心とした自発的な活動ができるよう、保育士等が関わっている | | |
| | | □ 子どもの自我の育ちを受け止め、保育士等が適切な関わりをしている | | |
| | | □ 保育士等が、友達との関わりの仲立ちをしている | | |
| | | □ 様々な年齢の子どもや、保育士以外の大人との関わりを図っている | | |
| | | □ 一人ひとりの子どもの状況に応じ、家庭と連携した取り組みや配慮がされている | | |
| | 8 | 3歳以上児の保育において、保育と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している | 2.25 | ・経験が少ない中で、試行錯誤しながら以上児保育を作り上げている。<br>・年長児の年下への思いやる姿から、異年齢保育の良さがみられる。<br>・以上児の発達や異年齢保育について、もっと園全体で学びを深める必要がある。<br>異年齢保育の中で、年少児との成長格差が大きいことから、単独の3歳児クラスも今後検討が必要である。 |
| | | □ 生活に必要な基本的な習慣や態度が身につくよう、目標やねらいに基づいて保育している | | |
| | | □ 友達と一緒に遊びを工夫や協力したり、共に達成感を味わえるよう働きかけを行っている | | |
| | | □ 物事の善悪や生活上でのルールの重要性に気づき、考え行動できるよう働きかけている | | |
| | | □ 生活や遊びの中で意欲や自信が持てたり、相手に対し思いやりが持てるよう働きかけをしている | | |
| | | □ 人の話を聞くことができ、日常生活に必要な挨拶や会話を身につけさせている | | |
| | | □ 子どもが自分の体験や要求を自分なりに表現できるように声掛け、働きかけを行っている | | |
| | | □ 音楽に親しみ、歌を歌ったり踊ったりする楽しさを味わう機会を作っている | | |
| | 9 | 障害のある子どもや発達が遅れている子が、安心して生活できる環境を整備し保育の内容や方法に配慮している | 2.75 | ・専門機関との連携がなされており、適切な助言を受け、特性に配慮され他保育をしている。インクルーシブな混合保育の中で無理のない互いの成長が見られる。<br>・年度当初から、作業療法士など巡回指導を受けている。<br>障害児研修を受ける機会がある。<br>・今後更に、園全体で障害児への関わり方について学びを深めていけたら良い。 |
| | | □ 建物・設備など、障害に応じた環境整備に配慮している | | |
| | | □ 障害児の状況に配慮した個別の指導計画を作成し、クラスの指導計画と関連付けている | | |
| | | □ 計画に基づき、子どもの状況と成長に応じた保育を行っている | | |
| | | □ 子ども同士の関わりに配慮し、共に成長できるようにしている | | |
| | | □ 保護者との連携を密にし、保育園での生活に配慮している | | |
| | | □ 必要に応じて、医療機関や専門機関から相談や助言を受けている | | |
| | | □ 職員は、障害のある子どもの保育について研修等により必要な知識や情報を得ている | | |
| | | □ 保護者に、障害のある子どもの保育に関する適切な情報を伝える為の取組を行っている | | |
| | 10 | 長時間にわたる保育の為の環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している | 2.75 | ・長時間保育の中で、不安や疲れがでないよう、穏やかな雰囲気の中で過ごす工夫がされている。<br>・担任からの伝言ノートにより、保護者へ確実に連絡されている。<br>・延長保育室の年齢に対応した玩具環境の設定を工夫している。 |
| | | □ 1日の生活を見通して、連続性に配慮し、子ども主体の計画性をもった取組となっている | | |
| | | □ 家庭的でゆったりと過ごすことができる環境を整えている | | |
| | | □ 子どもの状況に応じて、穏やかに過ごせるよう配慮している | | |
| | | □ 年齢の異なる子どもが一緒に過ごす事に配慮している | | |
| | | □ 保育時間の長い子どもに配慮した食事・おやつ等の提供を行っている | | |
| | | □ 子どもの状況について、保育士間の引継ぎを適切に行っている | | |
| | | □ 担当の保育士と保護者との連携が十分にとれるよう配慮している | | |
| | 11 | 卒園後の保育園や幼稚園などとの連携、見通しを持った計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している | 2.25 | ・幼保小の連携のもと、年長児保育の経験は浅いが、積極的に小学校の行事に参加見学したり、交流を図っている。<br>・卒園するまで、年長児の子どもの生活を見通し、保護者面談などを設けるなど検討が必要である。 |
| | | □ 計画の中に、卒園後の保育園や幼稚園との連携や、それに基づいた保育が行われている | | |
| | | □ 子どもが、卒園後の生活について見通しを持てる機会が設けられている | | |
| | | □ 保護者が、卒園後の子どもの生活について見通しが持てる機会が設けられている | | |
| | | □ 卒園後の保育園や幼稚園の先生方と意見交換を行うなど、連携を図っている | | |
| | | □ 施設長の責任の下に、関係する職員が参画し、要録等を作成している | | |
| | 12 | 子どもの健康管理を適切に行っている | 2.75 | ・WBGTのこまめな計測により、朝礼で職員周知のもと、熱中症対策をしっかりした上で保育の工夫がされている。<br>・子どもの健康に関わる情報について会議でその都度周知されている。<br>・空調機器の適切な使い方により、熱中症対策が図られている。 |
| | | □ 子どもの健康管理に関するマニュアルがあり、それに基づき心身の健康状態を把握している | | |
| | | □ 子どもの体調変化・怪我等について、保護者に伝えるとともに、事後の確認をしている | | |
| | | □ 子どもの保健に関する計画を作成している | | |
| | | □ 一人ひとりの子どもの健康状態に関する情報を関係職員に周知・共有している | | |
| | | □ 既往症や予防接種の状況等、健康に関わる必要な情報が常に得られるよう努めている | | |
| | | □ 保護者に対し、保育園の子どもの健康に関する方針や取組を伝えている | | |
| | | □ 職員にSIDSに関する知識を周知し、必要な取組を行っている | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 健康管理 | | □ 保護者に対し、SIDSに関する必要な情報提供をしている | | |
| | 13 | 健康診断、歯科検診の結果を保育に反映している | 3.00 | ・嘱託医により、全園児の確実な健康診断がなされている。結果についても、速やかに職員や保護者に周知されている。<br>・虫歯教室、うがい手洗い指導など保育に生かされている。 |
| | | □ 健康診断・歯科検診の結果が記録され、関係職員に周知されている | | |
| | | □ 健康診断・歯科検診の結果を保健計画等に反映させ、保育が行われている | | |
| | | □ 家庭での生活に有効に生かされるよう、健康診断・歯科検診の結果を保護者に伝えている | | |
| | 14 | アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている | 2.75 | ・アレルギーや熱性痙攣等のある子に対し、全職員に周知して適切な対応がなされている。<br>・食事の提供時、誤配・誤食が無いようチェック体制を取り工夫されている。<br>・保護者と定期的にアレルギー面談をするなど適切な対応を図っている。<br>・万が一に備え、エピペン訓練を全職員が実施している。 |
| | | □ アレルギー児に対して、ガイドラインをもとに子どもの状況に応じた適切な対応を行っている | | |
| | | □ 慢性疾患のある子どもに対し、医師の指示のもと、その子に応じた適切な対応を行っている | | |
| | | □ 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している | | |
| | | □ 食事の提供等において、他の子ども達との相違に配慮している | | |
| | | □ 職員は、アレルギーや慢性疾患等について知識や情報を得たり、技術を習得している | | |
| | | □ 他の子どもや保護者にアレルギーや慢性疾患等について理解を図る為の取組を行っている | | |
| 食事 | 15 | 食事を楽しむことができるよう工夫をしている | 3.00 | ・年齢や発達に応じて、ゆっくり落ち着いた環境と人的配慮がされている。<br>・離乳食の段階に応じ、食器の形や介助用の食具に配慮している。<br>・苦手なものを認めつつ、無理のない範囲で克服できるよう取り組んでいる。<br>・オクラの栽培や献立メニューの紹介により家庭と連携した食育に取り組んでいる。 |
| | | □ 食に関する豊かな経験ができるよう、保育の計画に位置付け取組を行っている | | |
| | | □ 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれる環境や雰囲気作りの工夫をしている | | |
| | | □ 子どもの発達に合わせた食事の援助を適切に行っている | | |
| | | □ 食器の材質や形などに配慮している | | |
| | | □ 個人差や食欲に応じて、量を加減できるよう工夫している | | |
| | | □ 食べたいもの、食べられるものが少しでも多くなるよう、援助している | | |
| | | □ 子どもが、食について関心を深めるための取組を行っている | | |
| | | □ 子どもの食生活や食育に関する取組について、家庭と連携している | | |
| | 16 | 子どもがおいしく安心して食べることができる食事を提供している | 2.50 | ・食育教室や野菜の栽培を通じ、食材に興味を持ち、苦手な食材も克服しようとする姿が増えている。<br>・給食メニューについて、週内に食材の重なりや季節の先取り食材があったり、日によって給食の量が異なることがあるので、業務委託先に献立の検討を依頼する。 |
| | | □ 一人ひとりの子どもの発育状況や体調を考慮した、献立・調理の工夫をしている | | |
| | | □ 子どもの食べる量や好き嫌いなどを把握している | | |
| | | □ 残食の調査記録や検食簿をまとめ、献立・調理の工夫に反映している | | |
| | | □ 季節感のある献立となるよう配慮している | | |
| | | □ 地域の食文化や行事食等を取り入れている | | |
| | | □ 調理員・栄養士が、食事の様子を見たり、子ども達の話を聞いたりする機会を設けている | | |
| | | □ 衛生管理の体制を確立し、マニュアルに基づき衛生管理が適切に行われている | | |
| 子育て支援 | 17 | 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている | 2.75 | ・コドモンを活用し、写真を使った連絡帳やドキュメンテーションなど、保護者に保育の様子を分かり易く伝えている。<br>・クラス懇談、個別懇談はもとより、朝夕の送迎時に情報共有ができるよう、家庭との連携を大切にしている。 |
| | | □ 連絡帳等により家庭と日常的な情報交換を行っている | | |
| | | □ 保育の意図や保育内容について、保護者の理解を得る機会を設けている | | |
| | | □ 様々な機会を活用して、保護者と子どもの成長を共有できるよう支援している | | |
| | | □ 家庭の状況、保護者との情報交換の内容を必要に応じて記録している | | |
| | 18 | 保護者が安心して子育てできるよう支援を行っている | 2.75 | ・日々の挨拶や会話を自然に行い、話しやすい関係性を大切にしている。<br>・保護者の相談に丁寧に対応している。<br>・保護者の子育て力を高めるための取り組みがあってもよい（親学び講座など）。 |
| | | □ 日々のコミュニケーションにより、保護者との信頼関係を築くよう取組を行っている | | |
| | | □ 保護者からの相談に応じる体制がある | | |
| | | □ 保護者の就労等の個々の事情に配慮して、相談に応じられるよう取組を行っている | | |
| | | □ 保育所の特性を活かした保護者への支援を行っている | | |
| | | □ 相談内容を適切に記録している | | |
| | | □ 相談を受けた保育士が適切に対応できるよう、助言が受けられる体制が整えられている | | |
| | 19 | 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている | 3.00 | ・虐待の可能性があると感じた場合は、疑いの段階でも関係機関に通告し、継続的な状況把握に努めている。<br>・子どもの心身の安全を守ることを第一に、朝夕の視診や子どもの様子や家庭の変化に留意している。 |
| | | □ 虐待の兆候を見逃さないように、子どもの心身の状態、家庭での状況について把握に努めている | | |
| | | □ 虐待の可能性があると感じた場合は、速やかに園内で情報を共有し、対応を協議する体制がある | | |
| | | □ 虐待の恐れがある場合には、予防的に保護者の精神面、生活面の援助をしている | | |
| | | □ 職員に対して、虐待が疑われる子どもの状態や行動など理解を促す取組を行っている | | |
| | | □ 児童相談所等の関係機関との連携を図るための取組を行っている | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | □ 虐待を発見した場合の対応マニュアルを整備し、職員の周知も行われている | | |
| 保育の質向上 | 20 | 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている | 2.25 | ・ 日常的に各部署で話合い、振り返りをしたり、意見を出し合ったりしている。<br>・ 自己評価が保育実践に生かされている場合もあれば、評価する事に留まっている場合もあるので、更なる保育の質を向上させるため、互いに話合うことが必要である。 |
| | | □ 保育士は、記録や話合いを通じて、主体的に自らの保育実践の振り返りを行っている | | |
| | | □ 自己評価について、活動や結果だけでなく、心の育ちや意欲や取り組む過程に配慮している | | |
| | | □ 保育士等の自己評価を、定期的に行っている | | |
| | | □ 保育士等の自己評価が、互いの学び合いや意識の向上につながっている | | |
| | | □ 保育士等の自己評価に基づき、保育の改善や専門性の向上に取り組んでいる | | |
| | | □ 保育士等の自己評価を、保育所全体の保育実践の自己評価につなげている | | |